

復活！…何か新しい一歩を…

昨年11月27日に創立50周年を祝った私たちは、新しくなった聖堂で初めての四旬節、聖週間、聖なる三日間を過ごし、そして復活祭を祝いました。行橋教会は「三位一体の神」に捧げられた共同体です。新装な

った聖堂はその「三位一体」の神を現しています。貧しさの中で生まれ、生涯を通して人々に神の愛を説き、自分のすべてを与え尽くされた子イエスは十字架の上で亡くなりました【さらなる苦しみ



の十字架：祭壇右横】。このイエスを父である神はご自分のもとに引き上げられました【ロンダニーニのピエタ：祭壇左側】。天の父と子は私たちに聖霊（神の力）を送ってください【復活・昇天のキリスト：聖堂中央の十字架】・【聖霊降臨：祭壇右側】。4月16日に復活祭を祝った私たちは、これから復活節を過ごします。主の昇天祭（5月28日）、聖霊降臨祭（6月4日）、三位一体の主日（6月11日）、キリストの聖体の主日（6月18日）【トスカーナのエリア・キリストの聖体：聖堂後壁】と記念祭が続きます。このように一年の時の流れの中で【自然界の恵み：聖堂側壁右】・【祈り：聖堂側壁左】、私たちは「三位一体の神」の救いの出来事を記念していくのです。

これからは、私たち一人ひとりが、個人として、また仲間として人々に神さまからの恵みを分かち合っていきたいものです。「受けるより、与える人は幸い」とは聖書の言葉です。

いのち…何ものにも変えがたい尊いもの。

今、その尊厳が大きく揺らいでいます。いのちが粗末に扱われる社会は、その全体が確実に「死」に向かっています（前教皇ヨハネ・パウロ2世メッセージ）。

「復活」のメッセージをいただいた私たちは、その救いのメッセージを生きていきます。私たち自身が日々小さな「死と復活」を繰り返しながら…。

陰になり、陽になり、皆さんは奉仕の生活に生きておられます。家庭の

ため、社会のため、そして教会のために。

そのような皆さんにぜひ、お勧め、お願いしたいことがあります。ある意味では個人的、ある意味では社会的、教会的、そして福音的なことでもあります。今、行橋教会では創立50周年を機に「今、私たちにできること」というテーマのもとに家族的な共同体づくりに励んでいます。その流れの中で、ぜひ、フィリッピン島のミンダナオ島の子どもたちを助けていただければ、と考えています。彼らがふさわしい教育を受けることができるように。

ミンダナオ支援計画

●ミンダナオ子ども図書館支援チャリティ● 《ミネハハ・ふれあいライブ》

5月28日(日)19時からコスメイトゆくはしホールで開かれるこのコンサートについての詳しい説明、案内はぜひ別のチラシを参考にしてください。この「司祭のてがみ」では重複を避けます。ただ、このてがみでぜひ伝えておきたいことをお話しします。

ミンダナオ子ども図書館支援「Mの会」についてです。「M」に関係のある方たちのミンダナオ支援の有志の会です。「M」は…ミンダナオ、「松居さん」、「溝田さん(九十九さんを私に紹介してくださった方)」、「宮崎さん(小倉教会オルガニスト)」そして「ミカエル真(私の名前)」のイニシャルから取った「M」です。まだまだ、たくさんの方がおられます。(そういえば…将来は司教さんたちにも入っていただこうかな?…松永、宮原、高見三明、三末、松浦、溝部、梅村昌弘、森…いっぱい「M」さんがいる!)

この会の発起人は小倉教会所属の溝田美恵子さんです。九十九さんを私に紹介してくださった方です。行橋教会創立50周年祭が終わった後、「なぜかよくわからないけど、とにかくミンダナオの子どもたちを支援しなければ!」という強い気持ちが沸き上がってきたそうです。「何かしよう!」と思っていた矢先、年が明けて一月に体に変調をきたし、胸部、腹部に水が溜まり、検査したら癌の末期と診断されました。今、仕事もやめて入院、治療を続けておられます。まったく健康だった方です。この「M」さん…末期にもかかわらず、元気いっぱい。抗癌治療のひどい副作用もなく、今のところ体重の減少もなく…「ミンダナオの仕事をするために病気になった」といいながら、病院で張り切ってコンサートの準備をしています。「神さまがこうしてくださった!」と言い切っておられます。

ミンダナオ子ども図書館の代表、松居友さんは例年5月頃来日され、講演などをして、ミンダナオの子どもたちのための支援を呼びかけておられます。今年の都合を伺ったら、月末が都合がいいとのこと。ミネハハさんの都合もコスメイトの都合も5月28日だったら開いている…ということでコンサートの日にちと会場が決まりました。

後で気づいたことですが、この日は「M」さんの誕生日です!。

「M」さんの友人、九十九さんも仕事の都合で日本におられるのでこのチャリティに参加できます。神さまのはからいの不思議を感じます。神さまは、ご自分がなさりたいことは絶対に実行されます。しかし、その神さまもお望みのことを一人でするのではなく、人々の協力を求められます。50周年祭は、まさにそのことが実現した時でした。千葉監督のマザーテレサの映画上映と講演会も用意したチケットはほぼ完売。会場のコスメイトも関係者の皆さんが驚くほど一杯になりました。収支も余剰金がなく、ほぼピッタリでした。

神さまのお望みの実現には犠牲がともないます。このコンサートの犠牲は「M」さんの病気でしょうか…。当日は「M」さんも元気に参加できることを祈っています。皆さんにも、ぜひ、このプロジェクトに参加、協力していただきたいと思います。そういえば、「皆さん」のイニシャルも「M」なんですね!

● 田中浩三著「病床の讃歌」 ●

ミンダナオのことを知って、二日市教会所属の小説家、田中浩三さんが、できたばかりの小説「病床の讃歌」を50冊プレゼントしてくださいました。売り上げはすべてミンダナオの子どもたちのために使ってください、とのこと。実話小説ですばらしい著作です。ぜひぜひ買って読んでいただきたいです。